

大動脈弁・僧帽弁手術におけるアプローチ方法の違いが 術後せん妄に及ぼす影響についての調査研究

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。
ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

大動脈弁手術や僧帽弁手術を受けられた方では、術後に一定の割合でせん妄を発症することが知られています。術後にせん妄を発症した患者さんは、ICU 滞在日数や在院日数が延長し、その後の認知症の発生率を上昇させることが報告されており、可能な限りせん妄の発症を予防することが重要と考えられています。現在、当院では身体への負担が少ない低侵襲心臓手術が行われており、在院日数の短縮や在宅復帰率を向上させることがわかっております。しかし、この低侵襲心臓手術が術後せん妄の発症に関連するかどうかは明らかになっておりません。

この研究では、手術前や手術後退院までの患者さんの情報を診療記録から調査し、手術後に ICU でせん妄が確認された患者さんの要因を調査します。特に、手術方法の違い（従来の手術と低侵襲心臓手術）と術後せん妄の発生率との関連を検証することを目的としています。

研究では診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2018 年 3 月～2023 年 7 月に当院にて大動脈弁・僧帽弁手術を受けられた方（緊急・準緊急手術を除く）

使用する試料・情報

年齢、性別、BMI、既往歴、服薬情報、入院前の ADL、手術関連情報、人工呼吸器装着期間、ICU 在室日数、在院日数、ICU 入室中の鎮静レベル、ICU 入室中のせん妄の有無、退院時の ADL など

使用開始予定日：2023 年 9 月 20 日

研究予定期間

2023 年 9 月 20 日～2024 年 3 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] リハビリテーション部 小川 稜太

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さん治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 リハビリテーション部 係長 小川 稜太

住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)